

# 父の教え

大野<sup>おおの</sup> 勇<sup>いさむ</sup>さん（43歳・堀金三田）

←普段の練習場である堀金体育館柔剣道場で、「クラブとそれを支える皆さんとのチームワークが強みと話す。」



相手がいない、仲間がいないでは何もできません。卓球を離れても同じだと思います。

「強くなっても謙虚でいてください」と

父は静かに、私を送り出しました。

—クラブの強さの秘訣を教えてください。

クラブとそれを支える皆さんとのチームワークが本当に素晴らしいところだと思います。選手、コーチ、保護者の皆さんが生きて一生懸命活動しています。また、小学生・中学生とも、多くの選手が県で上位入賞を果たしていて、チーム全体のレベルが高いことが強みだと思います。全体のレベルが高いということは、練習相手にも恵まれ、質の高い練習を継続的に行うことが可能です。



←左のペンホルダーラケットを用いた強烈な速攻が、大野さんの持ち味。

—子どもを指導する上で心掛けていることは何ですか？

まずは褒めることが大切だと思います。特に小さな子どもに言えることですが、卓球を好きになって続けてもらい、楽しく卓球をしてもらうことが最初の一步だと思います。大きくなって将来のことを考えるようになれば、次第に厳しさにも我慢できるようになると思います。

—教える子にはどんな選手、大人になってもほしいですか？

子どもたちには、選手として強くなっても「謙虚」な心を忘れないでほしいと思います。「謙虚」という言葉は、中国でも同じ漢字、同じ意味で使われる言葉で、父が私に論してくれた言葉です。

全国でも屈指の強豪卓球クラブ「堀金少年卓球クラブ（堀金JTC）」のコーチの一人である大野勇さんは、元中国の代表選手で、昨年の全日本教職員大会卓球シングルスチャンピオン5年前には日本国籍を取得し、現在は市教育委員会に勤務している。

—日本に暮らし始めたきっかけは？

日本に住み始めたのは14年前で、富山県魚津市の実業団チームに所属していました。富山県と私の故郷である中国・遼寧省は姉妹都市で、2000年の富山国体を控え、県全体の競技レベルを上げることが、当時の私の役割でした。実業団の契約が終わった後は、松本市の松南高校卓球部のコーチを勤めました。そのころ、堀金JTCには遼寧省で卓球を教わった恩師がコーチをしていて、その縁もあり、堀金で卓球を指導するようになりました。

—現在の活動状況は？

現在は市教育委員会の職員として、体育館施設の管理などを行っています。堀金JTCでの活動は、仕事が終わってから、毎週火・木・土・日と週4回、他のコーチ陣とともに練習を指導しています。

私は14歳からスポーツ専門学校の寮に入ったため、親と接するのは同年代の子どもに比べると、わずかな時間でした。私の父は医療関係の仕事をしていて、卓球については詳しくなく、競技のアドバイスを受けたことはありませんでしたが、たまに帰省し、学校に戻る前に毎回必ず「強くなってもおごることなく、謙虚な気持ちで忘れないでください」と言っていて静かに私を送り出してくれました。

謙虚さがなければチームワークもなくなりません。強くなるのは自分の努力だけではありません。みんなの協力と努力で自分が強くなるのだと思います。相手がいない、仲間がいないでは何もできません。卓球を離れたとしても同じことが言えると思います。

—ご自身も選手として、さまざまな大会を控えていますか？

ベテランの域に入り、体力的にも頑張らなければならない年代になっていると思います。技術も大事ですが、体力を維持できるように練習を積みみたいと思います。

「寒い所は人の心が温か」と言いますが、この地域は皆さんの心が本当に温かであるの地帯だと思います。私が恩返しできるのは、やはり卓球しかないと考えています。選手としてもコーチとしても一生懸命やりたいと思います。